

キーワード群の相関1

B キーワード群相関抽出

1文章の趣旨は『日本語の構造』で示したように使われている単語群の20%で表現されている。その中心となるのがキーワード群である。

『基本分析機能2』の「キーワードの抽出」で表しているように単語群を7段階に分類している。この分類は構成比で分類するのではなく、単語重量値の数で分類する。従って1文章で表現されている内容に主題が存在せず、内容が分散しているときは、キーワード群は検出されない。

複数文章の相関・相反を分析するとき、Wgとキーワード群を用いて関係が算出される。縦軸に複数文章の共通する全体のキーワード群をWgの降順で並べられ、横軸に各文章を並べ、縦軸と共有した単語のWgを並べる。

= MR活動に対する医師アンケート =

単語	Wg	カウント数	Wg平均	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P																
接待	3.7	44	4.0	●	3.7	●	8.4	●	5.4	●	6.1	●	2.4	●	2.8	●	3.5	●	5.8	●	4.7	●	3.7	●	4.2	●	3.2	●	3.2	●	2.7	●	2.6	●	2.8
良い	2.3	40	2.4	●	2.3			●	3.3			●	1.6	●	2.1	●	1.0	●	2.1	●	3.9	●	2.5	●	2.2	●	1.9	●	2.6	●	2.0	●	1.8	●	3.5
MR	1.2	30	1.4			●		1.7				●	2.1	●	2.1	●	1.4	●	2.1	●	1.6	●	1.1	●	1.9	●	0.9	●	1.0	●	2.1				
受ける	0.9	21	1.3					●	1.6						●	1.1	●	1.3					●	0.5	●	0.6	●	1.3						●	1.0
必要	0.8	20	1.1												●	0.6							●	0.9	●	0.7	●	0.9	●	1.3					
規制	0.7	17	1.2					●	1.2	●	2.1													●	1.1	●	0.6	●	0.9			●	1.3	●	1.4
会社	0.8	16	1.1			●		2.5					●	1.0								●	0.9		●	1.1	●	0.6	●	0.9	●	1.3			
情報	0.7	16	1.0										●	1.4								●	1.9	●	0.9	●	1.3	●	0.5						

上表は、MRの接待活動に対する医師アンケートでキーワード群の相関を抽出した一部である。横軸にAから始めた45名があり、縦軸に45名全員のキーワードを並べている。最初のWgは、縦軸の値で、Wg平均は横軸の数値の平均である。カウント数は縦軸の単語をキーワードとした人数を現している。

上表をワードクロスとしている。

1

共通認識を単語で抽出

g

上表のカウント数が大きいほど、共通意識の強い単語となる。但し、縦軸のWgが高くても、個別データによっては、低いものもある。全体意識と、個別データの意識の差が現れる。

キーワード群の相関2

2

無認識下での共通認識抽出

g

『キーワード群の相関1』の表で縦軸にワードが現れても、横軸でキーワード群に当てはまらない単語群が現れる。個別データとしては意識されていないが、全体ではキーワード群になっている。このような単語群を無意識下での共通認識となる。1個人の3文章以上を分析し、ワードクロスを表したとき、個人の無意識の意識単語、つまり暗黙知が現れる。

3

伝達率の測定

g

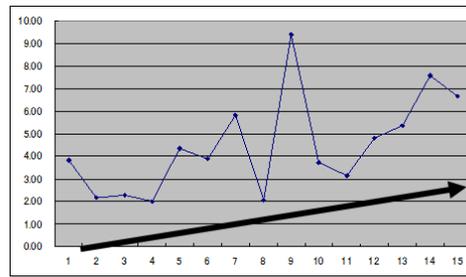
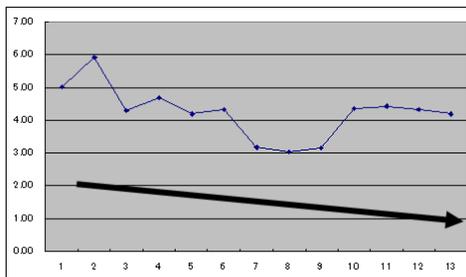
伝達したい内容があつて、その伝達されたはずの内容に伴って行動した事柄を記述(例えば報告書)した場合、ワードクロスで表されたところから、意識化、無意識化での単語群とそのWgが抽出される。

4

意識分野相関

g

キーワード群から、単語に伴った分野と比較して、意識分野が抽出される。『思考&テーマ分野の抽出』の発展形である。



左グラフは1人の文章を2年間継続して分析した時の2単語の変化である。縦軸はWgを表し、横軸は月数を表している。意識が強くなっている単語、次第に弱くなっている単語がある。弱くなっていく単語群、強くなっていく単語群で、意識変化が読み取れる。

る。複数の単語から分野が想定されるので意識される分野変化がつかめる。